

5年国語

想像力のスイッチを入れよう  
～自分の考えを書こう～

### 1. 本時の学習目標

自分の知識や経験と関係づけて読み、考えをまとめて伝え合おう

### 2. 指導の流れ（第6～7時／全8時）

教師の動き	予想される反応・指導のポイントなど
<p>1. これまでに学習した内容を思い出し、本時の書く活動につなげさせる。</p> <p>①指示「本教材を読むまでの自分を思い出そう。」</p> <p>②指示「本教材を読んで、「なるほど」「勉強になった」と思った事例について、友達と話してみよう。」</p> <p>③指示「教材の学習後に読んだ『窓をひろげて考えよう 下村健一』の絵本から心に残った事例について友達と話してみよう。」</p> <p>④指示「今回の学習を、日々の生活の中でも生かすことはできないだろうか。友達と話してみよう。」</p>	<p>C:「ネットの情報は全部本当だと思っていた」</p> <p>C:「事例と印象を分けるということは初めて知ったよ。」</p> <p>C:「犯人ではないのに、犯人にされて、つらい思いをした人がいることに驚いた。思い込みはよくないよね。」</p> <p>C:「クラスでもうわさ話などがあるけど、私はすぐに信じてしまうから、いけないと思ったよ。」</p>
<p>2. 指示「文章の構成に合わせて、自分の考えを書きましょう。」</p>	
<p>3. 指示「書いた文章をルーブリックに照らし合わせて、推敲しましょう。」</p>	<p>・各自ルーブリックに振り返りをさせる。</p>

### 3. ルーブリック評価

	①友達と意見交流を積極的に行い、自分の考えを深め、書く活動につながっているか。	②教材から事例をとりあげ、自分の考えを書くことができるか。	③身の回りの事象について考え、教材からの学びを書くことができているか。	④正しく原稿用紙が使えたり、正しく文字を書くことができているか。(段落、句読点、かぎ、小さい文字、漢字)	⑤計画性を持ち、最後まで根気よく取り組むことができたか。
A	友達に自ら意見を発表したり、積極的に聞いたり、交流のやりとりをたくさん行い、自分の考えを深めている。	①教材から事例を一つとりあげ、具体的に自分の考えや思ったことを書くことができている。	身の回りの事象について具体的な例を挙げ、教材の学びと結び付けて書くことができている。	段落、句読点、かぎ、小さい文字の書き方等、原稿用紙を正しく使うことができている。習った漢字を使うことができている。	見通しを持ち、最後まで根気強く取り組むことができている。
B	友達と意見交流はしているが、やりとりや意見が少なく、考えを深めるに至っていない。	事例を取り上げてはいるが、具体的な考えや思いの表現については不十分である。	具体的な例はないが身の回りの事象について書こうとしている。	原稿用紙の使い方、習った漢字の表記が不十分である。	仕上がるまで取り組むことができている。
	今日の学習のふりかえり				

#### 4. 児童の成果物

##### 「正しい判断ができる力」

私は、この『想像力のスイッチ』を読んで、今までの自分を見直そうと思いました。また、一つだけの情報で判断するのではなく、いろいろな情報を聞いて、正しい判断をしようと思いました。

私は、この説明文を読む前は、初めて見たりうわさで聞いた第一印象で、人を良い人、悪い人などと決めつけていて、すぐに人を判断していました。でも、よく考えたら、本当は良い人だったかもしれないし、見ていないところで好かれていたかもしれませんでした。なので、様々な見方から見るなど全然していなかったのです。

そのため、説明文を読んで、結論を急いではだめだなと気づかされました。徳に、7段落に挙げられた事例はそのとおりだと思いました。なぜかという、すぐに決めつけて答えを出した場合の答えと、様々な見方で考えた場合の答えがちがうからです。このように、しっかりと考えて判断することが大切なのです。私は、この教訓を生かして、人から相談などを受けたとき「あの子はこういう子なんだよ。」と言われても、しっかり考えて、その子の良いところを見つけていこうと思いました。

そして、情報をすぐに信じて友達に広めるのではなく、まず、その情報を知ったときにうたがい、よく考えて行動するように心がけたいと思います。

この『想像力のスイッチ』は人とのつながりの中でとても大事です。今の人々は思い込みが多く、よく考えて行動することができていません。そのため、私たちは、情報を駆使して正しい判断をすることが求められているのです。

#### 5. 児童の達成状況と文章から読み取れたこと

達成状況としては、児童の意識の中では、書くことに関してはB、関心意欲に関してはAが多い傾向であった。

思いもよらない筆者の指摘や、筆者の絵本の内容に心を動かされ、今後の生活に生かしていきたいと前向きに考える児童が多くおり、意欲的に書くことに取り組んだ。

書くことがBになったのは、具体的にくわしく書くことに課題があると捉えたようだ。実際、言葉足らずのため、教材を知らない人が読むと少し意味のわかりにくい部分がある。

## 6. 授業者のふりかえり

- ◎構成のひな型をもとに、友達と意見交流を入れたことで、自分の考えを広がったようである。
- ◎構成のひな型とルーブリック評価を本時の最初に提示することで、何についてがんばるとよいか<sup>①</sup>が明確になり、子どもたちの意欲に高まりがみられた。
- ◎3学期になり、書くことにも慣れがみられ、ほとんどの児童が1時間以内に仕上げることができた。
- ◎教材の学習後に、筆者の絵本『窓を広げて考えよう』を読んだことで、さらに身近なこととして考えられることとしてとらえる児童が増えた。

## 7. 文章の構成



想像力のスイッチを入れよう（自分の考えをまとめよう）

1. 結論（この勉強をして、大事だと思ったことを1～2文でズバッと書きましょう。）
2. この説明文を読む前の自分はどうだったか考えてみましょう。（例えば…インターネットの動画や書いてあることを見て、どんなふうに思っていたよ…とか。）
3. 国語で学習して、「なるほど」、「いい勉強になったな」、「そうか」と思ったのはどの事例ですか。また、なぜ、そう思ったのか理由も書きましょう。
4. クラスや学校、家庭など、自分の身近なところで、同じようなことはないかな。また、今回の勉強を生かせるようなところはないか考えて書きましょう。
5. 説明文や、本を見てみて、今後、自分が気をつけていきたい点、努力したい点、みんなに伝えたい点、大切に思う点は何でしょう。
6. まとめの文（最後にもう一度強調したいところについて表現を変えて書きましょう）